

【共生システム理工学研究科 環境放射能学専攻（博士後期課程）ディプロマ・ポリシー】

本専攻は、本学が有する充実した観測環境を活用した実践的教育・研究を行い、環境放射能分野を世界的にリードするとともに、国内外の研究機関・大学との協力関係に基づき、グローバルな視点を有する人材を育成することを教育・研究の理念とする。また、この教育・研究の理念に基づき、人工および天然放射性核種の環境中の動態を解明し、計測、モニタリング計画、制御、予測、評価などに、高度な専門知識に基づいて中長期的視点で総合的に取り組むことができ、環境防護、予測評価、環境修復、廃炉、中間貯蔵、浄化などの分野の課題解決ならびに学術的発展に貢献するとともに、その融合・深化させた知見を社会の課題解決に活用できる実践的かつ総合的な対応力を有する研究者・専門職業人を育成することを人材育成の方針とする。

そのために、前期課程までに培われた基礎的・実践的な学力を基盤として、以下の知識・素養・能力を修得させる。

1. 自己の専門分野に関する高度な専門知識と技能。
2. 世界ならびに地域の課題解決に向け、自立して研究・開発を行える能力と、異分野の専門家と対話できる能力。
3. 環境放射能学を構成するさまざまな学問分野に関する専門知識を融合・深化し、従来の学問分野の枠組みにとらわれず多元的な視点から発展させる能力。
4. 研究成果を国際的な場で発表し知の創生に貢献できる能力。
5. 非専門家への示唆に富んだコミュニケーションができる能力。